

音楽科 3年

全体の響きや声部の役割を生かした合唱をつくろう

担当 名前 田村有実子

【活動の目標】

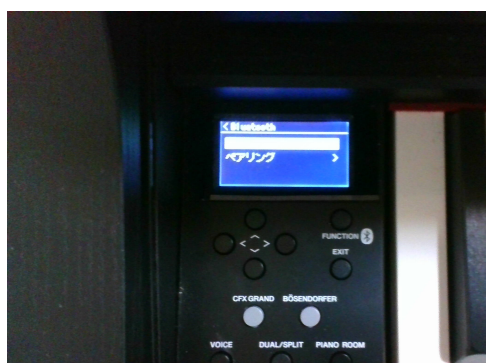
パートの音程を正確に歌い、他パートの音を聴きながら歌うことができる。

【 問 い 】

- ・ 伝統を引き継ぎ、後輩の心に残る合唱をつくるために必要なのはどんなことだろう。
- ・ 全体で合わせる時につられないような練習方法を考えよう。

今回 ICT を活用した場面	従来 of 活動
<p>B1 個に応じる学習</p> <p>感染防止対策を考えると、1パートしか声を出すことができなかつたので、待っている間に各自席でCBの音源を聴いて学習をした。</p> <p>B5 家庭学習</p> <p>少ない授業の中で完成度をあげるために、家庭で音源を聴いて練習している生徒も多かつた。</p>	<p>パートのピアノリーダーが音楽のまとめりごとにピアノを弾いて音を覚える。</p>

【資料】



【ICT 機器を活用する良さ】

- 必要な時に必要な音源を使用して練習を進めることができる。(範唱、カラピアノ、ソプラノ、アルト、テノール、バス) また、他のパートの音源を流しながら歌うことは、個人のレベルアップにもつながる。
- パートのメンバーや全体の中で歌うことが苦手でも、家庭で学習を進めることができ、少し自信を持って授業に参加できる。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・ 音源を聴いて歌うが、自分の音程が合っているのか分からない生徒もいる。
⇒ 音程が合っているかどうか分かるように、聴く力をつけていく。
- ・ CBの音量が小さいので、イヤホンを各自持ってくるか電子ピアノに備わっている Bluetooth を使用する。(現在1台のみ)